

東京バッハ合唱団 月報

[第 642 号] 2015 年 12 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 642

December 2015

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

荻窪教会を会場に特別演奏会、12/26 (土)

“クリスマス音楽の午後”と懇親会へのお誘い

この1年は“南相馬”で明け暮れました。年明けとともに上演曲の音取りが開始され、とくに春先になって加わった新規参加の団員方は、何もかも初めてで大わらわの1年だったと思います。が、すべてはほぼ満足の結果を得られて、おかげさまで充実した歳の瀬をむかえていらっしゃることでしょう。

こなしたステージは、3回；

- ・7月12日(日)、午後2時
世田谷プレコンサート@松原教会
日本キリスト教団松原教会(世田谷区松原)
- ・8月22日(土)、午後1時30分
第112回定期演奏会〈3.11被災地訪問演奏〉
南相馬市民文化会館(ゆめはっと)大ホール
- ・9月26日(土)、午後2時
報告コンサート@すぎなみ
日本キリスト教団荻窪教会(杉並区荻窪)

本公演の前後に小さなコンサートをセットしたのは、都内と近郊にお住まいの、多くのご常連の方々へのご披露、報告の目的とともに、後援名義の世田谷・杉並両区の住民のみなさんへのご挨拶といった意味合いもありました。両区の区報で、この活動を初めて知ったという方が、新入団員にも聴衆にも多くいらっしゃいました。

* * *

クリスマス特別演奏会

12月といえば《クリスマス・オラトリオ》です。第1部冒頭の太鼓とトランペットを聞かなければクリスマス・シーズンが始まらない、とおっしゃるバッハファンが大勢いらっしゃいます。

この数年、50周年の諸企画と南相馬公演関連の行事等で公演スケジュールがイレギュラーになっていたことに財政上の課

題も加わって、楽器編成の大きなオラトリオには、しばしばご無沙汰していました。近いうちにお聞かせできればと願っています(第116回、2017年あたり)。

次回の定演(第113回)は来年の5月28日(府中の森芸術劇場)と決定していますが、この上演曲の中から、クリスマス・シーズンにふさわしい3曲を、オルガン伴奏によって、先行して聞いていただこうとするのが、特別演奏会“クリスマス音楽の午後”です(下掲参照。先月号の月報にチラシを同封しました)。

なかでも、BWV 40《地に来ませり 神のみ子》は、降誕節第2日のために作曲されたものですから、コンサート当日がちょうどその日(12/26)にあたります。喜びに満ちた元気な冒頭合唱と、3曲の色合いの異なる4声体コラルの聴き比べ……、聞きどころ満載の名曲です。

BWV 16《主 ほめ歌わん》は、新年(1/1元旦)用の曲です。冒頭は、対位法技巧の活発な下3声の動きに、ソプラノの広々とした旋律が乗る、まさにバッハの妙味。数日後に訪れる新しい年を寿ぎます。BWV 192《ああ感謝せん 神に》は、同じ表題のコラル全3節による色とりどりの編曲。

合唱作曲家バッハが、祝賀と讃美に際して、思いついた限りの技法が展開されます。来年5月の定演の“予習”を兼ねて、ぜひご来場ください。

* * *



荻窪教会・クリスマス特別演奏会

“クリスマス音楽の午後”

日時=2015年12月26日(土)、午後2時開演
会場=荻窪教会

<入場無料>

- ・カンタータ第40番《地に来ませり 神のみ子》
- ・カンタータ第16番《主 ほめ歌わん》
- ・カンタータ第192番《ああ感謝せん 神に》

オルガン: 石川優歌、

合唱と斉唱: 東京バッハ合唱団

終演後に、クリスマス懇親会

午後4時ごろより、聴衆・後援会員・サポーターの方々と団員との、クリスマス懇親会を予定しています。<次ページに詳細>



クリスマス懇親会へのお誘い

東京バッハ合唱団では、恒例として、練習納めのクリスマス祝会を開いています。

ことしは、荻窪教会でのクリスマス・コンサート終了後に、同じ会場をお借りして、日ごろ私たちの活動を応援してくださっている後援会・団友、サポーター、月報読者のみなさまと、団員との懇親の機会とさせていただきますことになりました。

- ・とき：2015年12月26日、午後4時（コンサート後）
- ・ところ：荻窪教会（演奏会場と同じ）
- ・会費：1000円（軽飲食あり、当日いただきます）
- ・参加：要予約（12/15までに、お申込みください）

準備委員の方々が、なにやら、おいしそうなおものを用意すべく、知恵を絞っています。ふるってご参加ください。準備の都合がありますので、合唱団事務局まで事前の申し込みをお願いします。

《クリスマス・オラトリオ》にちなんだ食卓メニュー

大村 恵美子（主宰者）

私の留学時期（1960-1961年）、ヨーロッパのクリスマス・シーズンの市民生活は、バッハの《クリスマス・オラトリオ》によって圧倒的に蔽いつくされてきました。それを体験した私は、合唱団を始めた翌1963年から、さっそく前半（第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ部）と後半（第Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ部）とに分けて、定期演奏会のプログラムに根づかせたものでした。

初期の《クリスマス・オラトリオ》上演の歩みをふりかえってみると、

- ・1963年12月7日、第3回定期（#3）、立教大学礼拝堂…前半（第Ⅰ部 - 第Ⅲ部）
- ・1965年1月9日、第6回定期（#6）、東京文化会館小ホール…後半（第Ⅳ部 - 第Ⅵ部）
- ・1965年12月19日、第8回定期（#8）、東京文化会館小ホール…前半（第Ⅰ部 - 第Ⅲ部）
- ・1966年12月20日、第10回定期（#10）、都市センターホール…全曲（第Ⅰ部 - 第Ⅵ部）

『東京バッハ合唱団 半世紀の歩み』（2015年4月刊）によれば（p. 233）、その後2014年までに定演で演奏された《クリスマス・オラトリオ》は、右表のとおりです。

お察しのことと思いますが、バッハはクリスマス用のカンタータも数多く作曲していて《クリスマス・オラトリオ》だけをくり返しては、カンタータ上演の機会がないので、やむなく《オラトリオ》の出番が

《クリスマス・オラトリオ》上演歴

前半（Ⅰ - Ⅲ）演奏	後半（Ⅳ - Ⅵ）演奏
1963年12月（#3）	1965年1月（#6）
1965年12月（#8）	
1966年12月 全曲（Ⅰ - Ⅵ）（#10）	
1967年12月（#13）	1968年12月（#16）
1969年12月（#18）	1970年12月（#21）
1971年12月（#24）	1974年12月（#32）
1975年12月（#35）	1976年12月（#38）
1977年12月（#41）	1978年12月（#44）
1979年12月（#46）	1980年12月（#48）
1981年12月（#50）	
1983年12月（#54）	1984年12月（#57）
1988年12月（#64）	1989年12月（#66）
1990年12月（#68）	1991年12月（#70）
1994年12月（#76）	1995年12月（#78）
1996年12月（#80）	1997年12月（#82）
1999年12月（#86）	2000年12月（#88）
2001年12月（#90）	2003年12月（#94）
2004年12月（#96）	
2012年11月（#107）	2013年12月（#109）
計19回	計17回

（#付き数字は、定期演奏会の序数番号）

少なくなって来たのです。毎年《オラトリオ》が思い出されては、残念な気がしていたのですが、仕方のないことでした。

さて、その《クリスマス・オラトリオ》の上演史をたどり、まつわるエピソードを追うだけでも、格好の読みものになることとは思うのですけれども、最近、外国に長年暮らしてこられた団員方もふえ、たとえば南吉衛氏「ドイツの伝統と文化、教会」（前掲 p. 115）のように、ある地域のクリスマス風景をご紹介いただくのも、とても興味あることなので、バッハの楽曲解説ばかりを月報にのせるよりも、そういった現実の生活味ある内容にも、これからは目を向けては、と思うようになり、具体例として、私のアルザス生活でいえば、ヴァン・ショー（熱いワイン）とかプーレ・ガルニ（チキン丸焼）などがあげられる、そんなクリスマス・メニューにまつわる話から始めては、と、思っていましたら、どこからか、料理じたくの匂いが漂ってきました。12/26に、お会いしましょう。

ハロウィーンのイベントが最近はやりです。収穫祭と冬至、七面鳥やかぼちゃ、妖怪・骸骨などの仮装や小道具……、料理ばかりでなく、民俗のうごめきとクリスマスとの関わりも、「プレゼント」や「チャリティー」の心情を通じ、混沌からの救いにつながってくるように思われます。心ゆるせる人々と一緒に、地上の片隅につどって、あたたかく過ごす恵みのひととき、それがこの日の懇親会なのでしょう。



どんな国家に生きたいのか、 これからの世界を描く一助に

大村 恵美子

エマニュエル・トッド著

「ドイツ帝国」が世界を破滅させる

——日本人への警告

(文春新書、堀茂樹訳、2015年5月刊)

10. アメリカ

アメリカによる否認が表現されたのは、ドイツの抬頭の最初の段階、すなわち2003年のイラク戦争のとき、シュレーダー、シラク、プーチンが連携したときだ。アメリカの戦略家のうちには次のようにいう者がいたよ。「フランスを罰し、ドイツ（がしたこと）は忘れ、ロシアは勘弁してやるべきだ」(p. 31)

こんな体たらくのアメリカ、配下の国々がそれぞれの地域でおこなう冒険的行動をもはやコントロールできず、むしろ是認しなければならぬ立場のこのアメリカは、それ自体として一つの問題となっている。イラクにおける地政学の問題の筆頭であったこのアメリカはすでに、サウジアラビアから財政的協力を得ているジハード勢力に対抗するために、年来の戦略的敵国であるイランと協力することを余儀なくされている。サウジアラビアはドイツと同様にアメリカの主要な同盟国という地位にあるので、その裏切りはおおびらに確認されるわけにはいかない……(p. 34)。

アメリカが最も恐れなければいけないのは今日、ロシアの崩壊。オバマはヨーロッパのことが何も分かっていない。……彼の目に存在しているのは太平洋圏だけだ(p. 36)。

いまや高齢だが、アメリカによるユーラシア大陸支配の理論家として筆頭のブレジンスキーは、ロシアのことで頭がいっぱいでドイツの抬頭を見落とした。「ドイツ帝国」は最初のうちもっぱら経済的だったが、今日ではすでに政治的なものになっている。ドイツはもう一つの世界的大輸出大国である中国と意志を通じ合わせ始めている(p. 37)。

ズビグネフ・ブレジンスキーによれば、アメリカシステムとは、ユーラシア大陸の2つの大きな産業国家、すなわち、日本とドイツをアメリカがコントロールすることだ。ただしそれは、アメリカ自身が産業規模において明確に優越しているという仮定の下でのみ機能する。早くも1928年にアメリカの工業生産高は世界の工業生産高の45%を占めていた。戦後、1945年には、アメリカは相変わらず45%を占めている。ところが、それが今では17.5%にまで落ちたのである(p. 61)。

今日、2つの大きな先進的産業世界の存在を確認することになる。すなわち、一方にアメリカ、他方に新たな「ドイツ帝国」である。ロシアは第2次的な問題

でしかない。ドイツシステムの抬頭は、アメリカとドイツの間に紛争が起こることを示唆している。……未来に平和的な協調関係を想像するのは非現実的だ。アメリカとドイツは同じ諸価値を共有していない。……リベラルな民主主義の国であるアメリカはルーズベルトを登場させた。ところが、権威主義的で不平等な文化の国であるドイツはヒトラーを生み出したのだ(p. 63)。

アメリカはまた、現時点で、非常に多様な出自の人々を糾合して一つの世界を作ろうとする試みにおいてリーダーの国でもある(p. 64)。

「支配者達のデモクラシー」だ(p. 65)。

アメリカとドイツという2つのブロックは、それぞれの性質上対立的だということを確認しなくてはならない(p. 70)。

オバマの路線は、……アメリカのパワーにとっての長期的脅威が存在するアジアに「外交基軸」をよりしっかりと捉えるべく、イランおよびロシアとの緊張関係は緩和するというものだった。ところが、歴史はそれとはまったく異なる方向へ向かいました。これは否定し難い事実です。われわれはロシアとEUの間の対決のただ中において、今やEUの経済的・外交的リーダーシップをとっているのはドイツです(p. 108)。

ブレジンスキーの『地政学で世界を読む—21世紀のユーラシア覇権ゲーム』を読むと、戦後のアメリカのパワーがユーラシア大陸の2つの最も大きな産業の柱、すなわち日本とドイツをコントロールすることで成立してきたということが分かります(p. 116)。

今日、アメリカはドイツに対するコントロールを失ってしまっており、そのことが露見しないようにウクライナでドイツに追随しているのです。ヨーロッパは不安定化し、硬直すると同時に冒険的になっています(p. 117)。

中国はおそらく経済成長の瓦解と大きな危機の寸前にいます。……アメリカとロシアの新たなパートナーシップこそ、われわれ人類が「世界的無秩序」の中に沈没するという、現実となる可能性が日々増大している事態を回避するための鍵だろうと思います(p. 118)。

ドイツ人たちは平和主義と経済的膨張主義の間で迷っている。アメリカ人たちは帝国主義路線とネイション路線の間で揺れている。そしてフランス人たちはこの混迷の中でどこに身を置けばよいか本当に分からなくなってしまう(p. 119)。[=1. ドイツ参照(月報640号、p. 3)]

「仏独カップル」の挫折の後、一抹のアイロニーを込めて言うのですが、私は「米露カップル」がうまくいくかどうか試してみたいと思います(p. 123)。[同上]

私の考えでは、ヨーロッパにはもう何も期待できません。ユーロを厄介払いすることが自らの延命にとってきわめて重要な利益であるというのに、それすらできないような地域に、いったい何をまじめに期待する

ことができるというのでしょうか。この意味で私は今日、合衆国で起こることにより大きな関心を寄せていると白状しておきます。オバマの第1期は私には特に印象的ではありませんでした。が、2012年の再選以降の彼の政治、とりわけウクライナ危機にいたるまでの外政は、見せかけでない革新的知性によるものだった……。したがって本当の問題は、アメリカが自らの現状を維持できるかどうか、さらにはボールが跳ねるように反発してまた強くなる事ができるかどうか、それとも沈没し、衰頹していくか、そこどころなのです。ヨーロッパのケースは、私見ではすでに決着してしまっています (p. 123, 124)。

かくして債務が、需要不足を埋め合わせる役目を果たすことになりました。もちろんローンのメカニズムは最後には弾け、所得も輸入も崩壊します。こんな文脈の中では、G7、G8、そしてG20が準備した景気振興プランは合理的なリアクションでした。ケインズの勝利と国家のカムバックが歓迎されました (p. 186)。

国家は無力ではない。しかし、寡頭支配に仕えている。これが現代の真実なのです (p. 187)。

一方、アメリカの少額年金所得者のことで泣きまねをするのはおかしい。アメリカは何年も前から世界から資金を還流させる掛け買いで生きてきたのですよ (p. 195)。

11. イギリス

私はイギリスを「離脱途上」というように描写した。イギリス人たちは、彼らにとってぞっとするものである大陸ヨーロッパのシステムに加入することはできない。彼らは……ドイツ人に従う習慣を持っていないのだ。……ドイツ的ヨーロッパよりはるかにエキサイティングで、老齢化の程度もより低く、より権威主義的ではないもう一つの別の世界である「英語圏」、つまりアメリカやカナダや旧イギリス植民地の世界に属している。貿易上は格別に重要であるが、メンタル的にはどうしても和解できないタイプのヨーロッパを前にして、イギリス人であることはどれほど居心地の悪いものであるか (p. 48)。

アングロサクソンの社会文化は、平等的ではないが、本当に自由主義的だ。平等か不平等かは場合による (p. 69)。

英米系の社会文化は、諸国の間の差異をそこそこりズナブルに管理することができる (p. 70)。

12. イスラエル

イスラエルも「支配者たちのデモクラシー」としてカテゴライズできるだろう。イスラエルの民主主義に一体感と自由が存在するのは、敵と見なされるアラブ人たちの集団が存在していることによってであるから (p. 65)。

13. イタリア・ギリシャ・スペイン・ポルトガル

今、人々がギリシャ人を「助ける」と言っていますが、それはお金を脅し取られる立場に彼らを留め置くことです。ユーロ圏の危機を創り出したのは基本的に、借り手の呑気さではなく、貸し手の攻撃的な態度です。寡頭支配者たちの内には非合理性や、さらには集団的な狂躁のようなものさえも感じられます。とはいえ、特権的な立場にいる社会グループは必ずしも頹廢していず、無責任でもありません (p. 184)。

少数者の支配であるオリガルキー(寡頭制)は、語源的に最も優れた者の支配を意味するアリストクラシー(貴族制)とは違うのです (p. 185)。

民主主義的にコントロールされない官僚支配を経験したか、あるいはそうなりかねなかった国としてギリシャ、イタリア、スペイン、ポルトガルがあり、これらの国々はデモクラシーの歴史が浅いのです。そうですとも、事態は深刻です。ファシズムのイタリア、軍事政権のギリシャ、フランコのスペイン、アントニオ・サラザールのポルトガルなどの復活に直面するリスクは十分に現実的です。自由主義的なデモクラシーの北西ヨーロッパでは出生率は女性1人当たりの子供の数が1.9人ないし2.0人の水準に接近していているのに対し、権威主義的で、かつてファシズムや Kommunismusに支配されたヨーロッパの地域では、……きわめて低く、平均1.3人から1.5人なのです (p. 192)。

14. トルコ

E.U諸国民はトルコの加入を望んでいない。しかしそれよりもはるかに重要なこと、それは、トルコ人もはやE.Uを欲していないということだ (p. 53)。

<完>



J.S. Bach
Kantate in g-moll für Speyer

DVD VIDEO

©2015 BACH-CHOR TOKYO. MADE IN JAPAN

Kantate: Ich hab in Gottes Herz und Sinn BWV 92
Guest Performance
Kantate: Jesus schläft, was soll ich hoffen? BWV 81
Motette: Jesu, meine Freude BWV 227

Encores / Presentation
BACH-CHOR TOKYO
Ohmura Kimiko, Übersetzung/Leitung
Das 112. ReguliKonzert in Minamiosaka
22/8/2015

クリスマスプレゼントに!

**<3.11 被災地訪問演奏
=南相馬公演>**

第 112 回定期演奏会

全曲収録ディスク

- CD(2枚組) 2500円
- DVD 3000円
- BD(Blu-ray) 3500円

- ・カンタータ第92番《わが心 思い 神にゆだねたり》
- ・「花は咲く」「大切なふるさと」「故郷」(合同演奏)
- ・カンタータ第81番《主イエス眠り いかにもすべきわが望み》
- ・モテット《イエス よろこび》

DVD、BDには、巻末に前夜レセプション(抜粋)、終演後のスナップの各映像が付きます。いずれも、送料180円(ゆうメール)

●前夜レセプションDVD(完全収録版) 2200円
(「そうま地方合唱を楽しむ会」の方々との本番前夜の交歓レセプション。ソリスト、演奏陣、役員方のスピーチ、初めての合同練習など、感動の全記録)

◆事務局あて、お申し込みください。